

イミダクロプリド剤およびフィプロニル剤の 育苗箱同時処理によるイネ害虫の効率的防除

農業研究センター 生産環境研究所病害虫研究室

担当者：樋口聡志・行徳 裕

研究のねらい

イネ移植時の育苗箱に処理する殺虫剤は、イミダクロプリド粒剤およびフィプロニル粒剤の普及率が高い。しかし、イミダクロプリド剤はトビイロウンカ、フィプロニル剤はセジロウンカに対する防除効果が低下している。そこで、両剤の欠点を補うために、これら2種殺虫成分を育苗箱へ同時に処理してイネ害虫に対する防除効果を明らかにする。

研究の成果

- 1．イミダクロプリド2%とフィプロニル1%両成分の育苗箱同時処理は、セジロウンカ、ツマグロヨコバイに対してイミダクロプリド2%粒剤と同等の、トビイロウンカ、コブノメイガに対してフィプロニル1%粒剤に同等の高い防除効果があり、4種のイネ害虫に対する効率的な防除が可能である。
- 2．ヒメトビウンカに対する2種成分の育苗箱同時処理は、他害虫に比べると低いが、イミダクロプリド2%粒剤およびフィプロニル1%粒剤の単剤処理に比べて高い防除効果がある。
- 3．イミダクロプリドとフィプロニル両成分の育苗箱同時処理として、混合粒剤処理とフィプロニル粒剤を処理した育苗箱にイミダクロプリド水和剤を灌注する方法があり、これら2つの処理方法は、同等の防除効果がある。

普及上の留意点

- 1．イミダクロプリドとフィプロニルの両成分を育苗箱に処理した場合でも、本田での害虫の発生状況により、追加防除は必要である。
- 2．育苗箱での灌注処理は、移植2日前～移植当日にジョウロ等で行う。

【具体的データ】

熊本県農林水産部

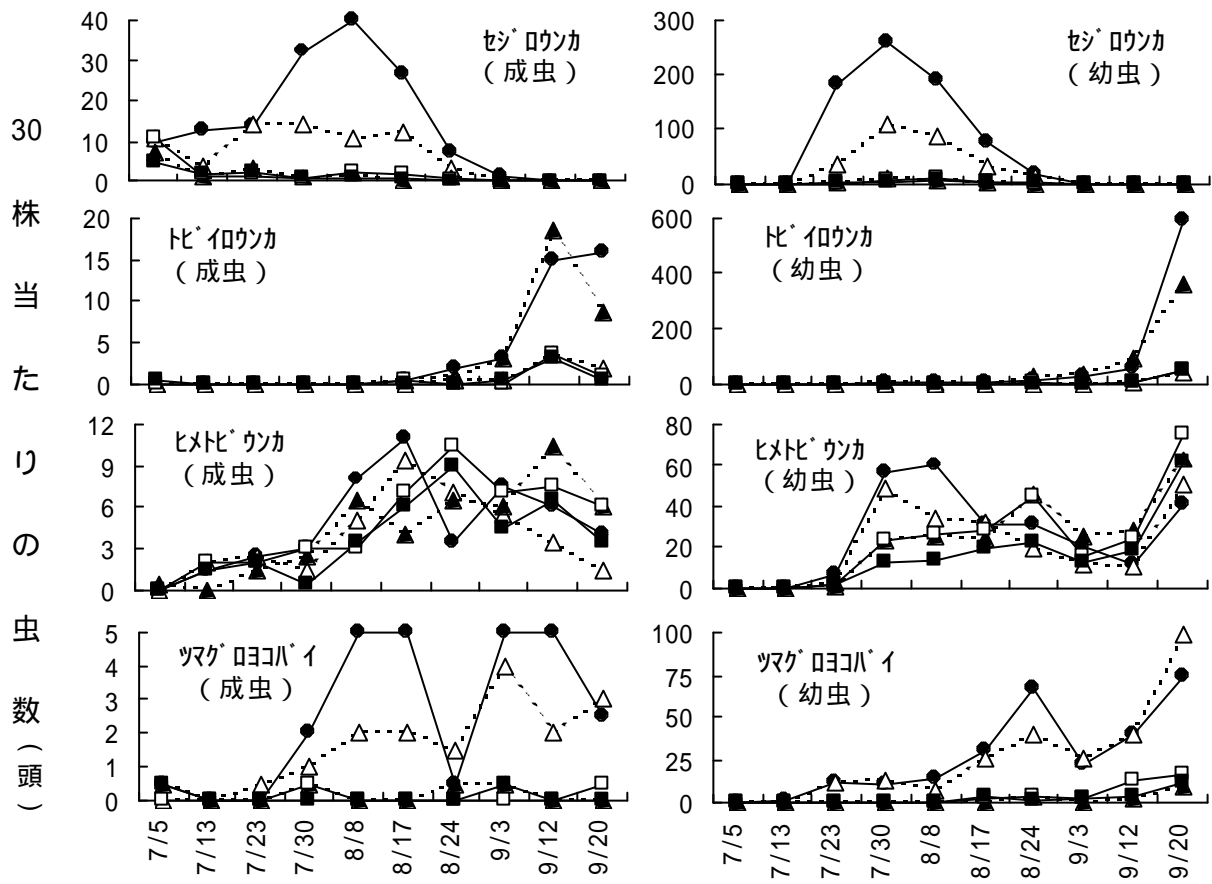


図1 払い落とし調査におけるウンカ類およびツマグロヨコバイの成幼虫数

:イミダクロプリド2%・フィプロニル1%粒剤 50 g/箱

:フィプロニル1%粒剤 50 g/箱

+ イミダクロプリド50%水和剤 500倍、500ml/箱の灌注処理

:イミダクロプリド2%粒剤 50 g/箱

:フィプロニル1%粒剤 50 g/箱

:無処理

移植日 2007年6月21日

薬剤処理日 移植当日処理

セジロウンカ・トビイロウンカの主飛来日 :7月2日~5日

本試験での本田防除は実施していない。

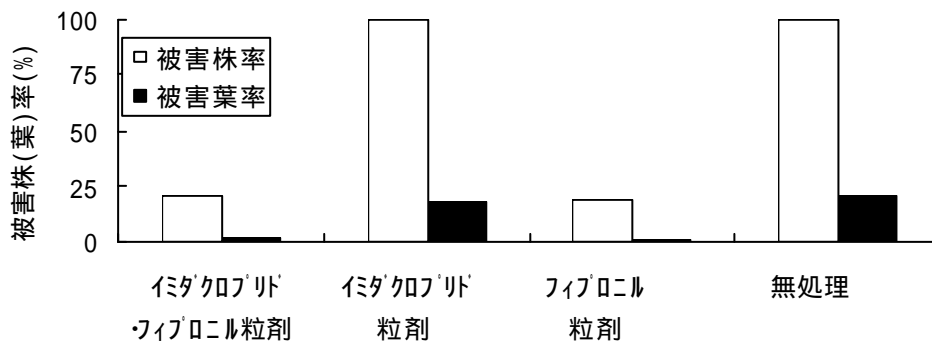


図2 コブノメイガに対する防除効果 (07年7月24日・移植33日後調査)

薬剤の処理量・処理時期は、図1と同じである。

フィプロニル粒剤 + イミダクロプリド水和剤灌注処理区は、調査なし。